



## 平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月29日

上場会社名 京福電気鉄道株式会社  
 コード番号 9049 URL <http://www.keifuku.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西田 寛  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長 (氏名) 長尾 拓昭  
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月12日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 075-841-9385

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	5,858	2.9	372	32.5	358	44.1	190	△30.5
25年3月期第2四半期	5,692	△1.8	281	△28.4	248	△30.3	274	35.1

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 221百万円 (△23.6%) 25年3月期第2四半期 290百万円 (48.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	9.59	—
25年3月期第2四半期	13.81	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第2四半期	16,739	4,565	24.0	201.69
25年3月期	17,418	4,403	22.1	193.64

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 4,013百万円 25年3月期 3,853百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,400	0.3	380	9.8	310	13.2	300	△10.2	15.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期2Q	20,000,000 株	25年3月期	20,000,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	101,142 株	25年3月期	100,169 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期2Q	19,899,292 株	25年3月期2Q	19,902,822 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想については発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。  
なお、業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(参考) 平成26年3月期の個別業績予想

(%表示は対前期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	2,550	1.0	100	△5.2	180	49.4	9	05

(注) 個別業績予想数値の当四半期における修正の有無 : 無

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8
4. (参考) 四半期財務諸表（個別） .....	9
(1) (参考) 四半期貸借対照表（個別） .....	9
(2) (参考) 四半期損益計算書（個別） .....	11
5. 補足情報 .....	12
事業別成績表（個別） .....	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当中間期（第2四半期累計期間）におけるわが国経済は、政府の経済・金融政策にともなう円安・株高基調により輸出産業を中心に業績が向上するなど、景気は緩やかな回復傾向を見せたものの、原材料価格の上昇、電力料金の値上げ等に対する不安感から、先行きの見通しは不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、運輸業、不動産業、レジャー・サービス業の各事業において積極的な営業活動を展開するとともに、「安全・安心」の徹底を基本とし、お客様目線でのサービスの提供や経営の効率化に取り組みました。

特に、本年7月には嵐山駅施設の大規模リニューアル工事が完了し、さらなる安全対策を向上させるとともに、飲食や物販スペースの充実を図りました。当施設は、世界的な空間デザイナーである森田恭通氏による「日本と京都を表現したone and onlyの駅空間」をコンセプトとしたものであり、さらに、京友禅とLED照明を取り入れたポールによる光林を「きものフォレスト」と名付け、お客様が自由にご覧いただけるように駅改札口を撤去するなど「魅せる駅」として新たな観光スポットを創出しました。

このような結果、当中間期における連結の営業収益は5,858百万円（前年同期比166百万円、2.9%増）、営業利益は372百万円（前年同期比91百万円、32.5%増）、経常利益は358百万円（前年同期比109百万円、44.1%増）、また四半期純利益は190百万円（前年同期比83百万円、30.5%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ① 運輸業

鉄軌道事業におきましては、嵐山線では、本年3月の交通ICカードの全国相互利用の開始以降、鉄道ネットワークのさらなる拡充によりお客様の利便性が向上したことで、観光のお客様のご利用はもとより、地元のお客様のご利用も増加しました。ただ、夏季以降の猛暑と週末毎の悪天候による出控えて収入は低調に推移しました。

営業面におきましては、夏季恒例の「妖怪電車」の運行や「嵐電・妖怪総選挙2013」を開催したほか、嵐山駅のリニューアルに関連した企画をはじめ「貸切ガイド電車」の運行など、団体ツアー客の誘致にも積極的に取り組みました。

叡山ケーブル・ロープウェイでは、ゴールデンウィークなど行楽シーズンには天候に恵まれました。また、パッチャルシアター「お化けの間」の開催をはじめ、夏休みのファミリー層を対象にした各種催しを実施するなど、比叡山・八瀬地区の活性化策に取り組みましたが、夏季以降の天候不順により低調に推移しました。

バス事業におきましては、京都バス(株)では、本年3月より基幹路線の増強および一部路線の延長を行うなか、お客様の利用実態に見合ったダイヤへの見直しや運転区間・時分を工夫することで利便性向上を図るなど、サービスの充実や新規需要の発掘を行うことで減収傾向の改善に努めました。京福バス(株)では、平成27年3月に予定される北陸新幹線開業に向けた取り組みとして、福井県と観光行政機関と連携し県内の観光路線整備を進め、本年7月には「あわら恐竜号」、「あわら三国特急バス」、あわら温泉とJR金沢駅を結ぶ高速バス「あわら金沢線」の運行を開始しました。また、グループタクシー各社と連携し、地域の足を確保するための地域コミュニティバス事業に引き続き取り組み、既存路線とコミュニティバスの効率的な組み合わせなど、お客様のご要望や地域特性に配慮したダイヤや経路等による運行を行っております。

なお、京都バス(株)、京福バス(株)の両社では本年9月に「貸切バス事業者安全性評価認定制度」において「二つ星」の認定を受け、さらなる安全輸送とお客様からの信頼獲得を目指してまいります。

以上の結果、運輸業の営業収益は3,882百万円（前年同期比88百万円、2.3%増）となり、営業利益は121百万円（前年同期比35百万円、41.4%増）となりました。

#### ② 不動産業

不動産分譲事業におきましては、(株)京福コミュニティサービスが、福井市の「開発（かいほつ）」および「下江守町」の各分譲宅地を完売したほか、「あわら市二面（ふたおもて）」分譲宅地の早期完売に向けて継続的な営業活動を展開しました。

不動産賃貸事業におきましては、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」では、本年7月のリニューアルオープンを機に、新旧テナントの融合による販売商品の多様化と「きものフォレスト」、「龍の愛宕池」など新たな観光スポットとの組み合わせにより、お客様に楽しんでいただくための仕掛けを施すなど、集客力向上のための魅力ある施設づくりに努めました。

また、昨年8月に取得した大阪市西区の賃貸マンション「コンソラーレ土佐堀」については、所期の計画どおり推移し、増収に寄与しました。

「BOAT RACE 三国」では、自社映像センターでのデジタル化を進め、衛星放送、インターネット放送のハイビジョン化を開始してお客様のニーズに対応するなど、新たなお客様の開拓に取り組みました。また、施設へのご来場の促進を図るため、モーターボートレース施行者等との連携のもと、大型レース（GⅡレース）などの誘致や施

設内での催しを実施するなど、さまざまな増収施策にも取り組みました。

以上の結果、不動産業の営業収益は1,151百万円（前年同期比93百万円、8.9%増）となり、営業利益は173百万円（前年同期比61百万円、54.7%増）となりました。

### ③ レジャー・サービス業

飲食業におきましては、「中国料理 吉珍樓（キッチンロウ）」、「八幡家（やわたや）」、「京都ぎをん八咫（やた）博多店」でのそれぞれの地域特性に応じた商品開発や宣伝方法および営業活動を実施するとともに、接客サービスの向上や原価管理のさらなる徹底に取り組みました。

物販業におきましては、本年6月から「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」内にて、嵐山駅の夏の風物詩となったビアガーデン（RANDEN EKI-BEER 2013）の営業を行い、観光のお客様はもとより、地元の皆さまからも好評を博しました。また、本年3月にオープンした「らんでんや金閣寺みち」では、金閣寺を訪れるお客様に沿線情報を提供し、嵐電のPRに取り組むとともに、「お休み処」としてご好評をいただいております。

越前松島水族館では、恒例となった夏休み期間中の「オールナイト水族館」や、敬老の日イベントを実施するなど、お客様やご家族が楽しめる催物を行うとともに、教育の場として水族館の生き物写真コンテストや生き物観察会など、当館ならではの取り組みを行いました。

三国観光ホテルでは、夏休み期間中にご来館のご家族連れに楽しんでいただけるオリジナルイベントを開催するなど、様々な趣向でお客様にご満足いただき、リピーターになっていただけるための「おもてなし」に努めました。

以上の結果、レジャー・サービス業の営業収益は1,141百万円（前年同期比0百万円、0.0%減）、営業利益は74百万円（前年同期比5百万円、7.0%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産は、負債の返済による現金及び預金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ679百万円減少し、16,739百万円となりました。負債は、借入金の返済や社債の償還による減少などにより、前連結会計年度末に比べ841百万円減少し、12,173百万円となりました。純資産は、期末配当を実施した一方で、四半期純利益による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ161百万円増加し、4,565百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年4月30日の「平成25年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,651	1,136
受取手形及び売掛金	1,138	934
販売土地及び建物	71	25
商品及び製品	25	25
仕掛品	—	3
原材料及び貯蔵品	54	57
前払費用	34	37
繰延税金資産	104	109
その他	65	85
貸倒引当金	△11	△13
流動資産合計	3,136	2,404
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,617	8,635
機械装置及び運搬具(純額)	913	850
土地	2,893	2,904
リース資産(純額)	916	868
建設仮勘定	17	16
その他(純額)	242	376
有形固定資産合計	13,600	13,652
無形固定資産		
その他	113	101
無形固定資産合計	113	101
投資その他の資産		
投資有価証券	237	252
その他	310	312
投資その他の資産合計	548	564
固定資産合計	14,262	14,318
繰延資産		
社債発行費	20	16
繰延資産合計	20	16
資産合計	17,418	16,739

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	71	72
短期借入金	3,961	3,593
1年内償還予定の社債	376	331
リース債務	198	196
未払金	606	411
未払法人税等	91	107
未払消費税等	35	83
賞与引当金	236	242
その他	457	416
流動負債合計	6,034	5,455
固定負債		
社債	987	821
長期借入金	3,737	3,552
リース債務	739	688
長期末払金	619	718
繰延税金負債	288	320
退職給付引当金	263	269
役員退職慰労引当金	131	132
その他	213	215
固定負債合計	6,980	6,718
負債合計	13,015	12,173
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	270	270
利益剰余金	2,556	2,707
自己株式	△14	△14
株主資本合計	3,812	3,963
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41	50
その他の包括利益累計額合計	41	50
少数株主持分	549	551
純資産合計	4,403	4,565
負債純資産合計	17,418	16,739



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業収益	5,692	5,858
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	5,344	5,424
販売費及び一般管理費	66	61
営業費合計	5,411	5,485
営業利益	281	372
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	3	3
負ののれん償却額	10	15
雑収入	9	14
営業外収益合計	23	33
営業外費用		
支払利息	46	40
社債発行費償却	3	3
雑支出	6	3
営業外費用合計	56	47
経常利益	248	358
特別利益		
移転補償金	74	—
固定資産売却益	5	34
補助金	12	—
特別利益合計	92	34
特別損失		
固定資産除却損	—	51
特別損失合計	—	51
税金等調整前四半期純利益	340	341
法人税、住民税及び事業税	100	107
法人税等調整額	△67	21
法人税等合計	32	129
少数株主損益調整前四半期純利益	308	212
少数株主利益	33	21
四半期純利益	274	190

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	308	212
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△18	9
その他の包括利益合計	△18	9
四半期包括利益	290	221
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	257	199
少数株主に係る四半期包括利益	32	21

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	3,779	927	985	5,692	—	5,692
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	14	130	155	300	(300)	—
計	3,793	1,058	1,141	5,992	(300)	5,692
セグメント利益	85	112	80	278	2	281

(注) 1 セグメント利益の調整額2百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	3,868	1,015	973	5,858	—	5,858
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	13	135	167	316	(316)	—
計	3,882	1,151	1,141	6,175	(316)	5,858
セグメント利益	121	173	74	370	2	372

(注) 1 セグメント利益の調整額2百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 4. (参考) 四半期財務諸表 (個別)

## (1) (参考) 四半期貸借対照表 (個別)

(単位: 百万円)

科 目	前事業年度末 (平成25年3月31日)	当第2四半期会計期間末 (平成25年9月30日)
(資産の部)		
流動資産	858	513
現金及び預金	585	265
未収運賃	21	26
未収金	77	0
未収消費税等	12	—
未収収益	67	45
関係会社短期貸付金	8	87
販売土地及び建物	21	21
貯蔵品	22	23
前払費用	6	8
繰延税金資産	16	21
その他	20	14
貸倒引当金	△0	△1
固定資産	11,209	11,343
鉄軌道事業固定資産	2,419	2,481
兼業固定資産	7,507	7,581
各事業関連固定資産	72	71
建設仮勘定	13	0
投資その他の資産	1,196	1,208
関係会社株式	890	893
投資有価証券	147	152
出資金	1	1
長期前払費用	2	1
その他	154	158
繰延資産	20	16
社債発行費	20	16
資産合計	12,087	11,873

(単位：百万円)

科 目	前事業年度末 (平成25年3月31日)	当第2四半期会計期間末 (平成25年9月30日)
(負債の部)		
流動負債	4,132	4,000
短期借入金	1,880	1,830
1年内返済予定の長期借入金	1,418	1,327
関係会社短期借入金	—	200
1年内償還予定の社債	376	331
リース債務	1	2
未払金	242	69
未払費用	64	51
未払法人税等	7	17
未払消費税等	—	18
前受金	0	—
預り連絡運賃	0	0
預り金	52	38
前受運賃	14	17
前受収益	36	45
賞与引当金	35	45
その他	2	4
固定負債	5,380	5,243
社債	987	821
長期借入金	3,632	3,484
リース債務	2	6
長期未払金	56	185
繰延税金負債	531	563
役員退職慰労引当金	54	62
資産除去債務	5	5
長期預り金	20	19
長期預り保証金	90	96
負債合計	9,513	9,243
(純資産の部)		
株主資本	2,546	2,597
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	270	270
資本準備金	270	270
利益剰余金	1,289	1,341
利益準備金	46	46
その他利益剰余金	1,243	1,295
固定資産圧縮積立金	753	732
繰越利益剰余金	490	562
自己株式	△14	△14
評価・換算差額等	28	32
その他有価証券評価差額金	28	32
純資産合計	2,574	2,629
負債純資産合計	12,087	11,873

(注) この四半期貸借対照表は、四半期財務諸表等規則及び鉄道事業会計規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

## (2) (参考) 四半期損益計算書 (個別)

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
鉄軌道事業		
営業収益	656	646
営業費	599	588
営業利益	57	58
兼業		
営業収益	590	650
営業費	536	560
営業利益	53	90
全事業		
営業収益	1,247	1,297
営業費	1,136	1,148
営業利益	111	148
営業外収益	45	33
営業外費用	44	42
経常利益	112	140
特別利益	68	29
特別損失	—	39
税引前四半期純利益	180	130
法人税、住民税及び事業税	17	13
法人税等調整額	28	25
四半期純利益	134	91

(注) この四半期損益計算書は、四半期財務諸表等規則及び鉄道事業会計規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

## 5. 補足資料

## 事業別成績表(個別)

鉄軌道事業		前第2四半期 累計期間	当第2四半期 累計期間	前年同期比較増減		前事業年度
		(24.4.1～ 24.9.30)	(25.4.1～ 25.9.30)	金額	率	(24.4.1～ 25.3.31)
営業 収益		百万円	百万円	百万円	%	百万円
	旅客運輸収入	617	612	△5	△0.9	1,225
	嵐山線	557	552	△4	△0.9	1,125
	鋼索線・架空索道	60	59	△0	△1.4	100
	運輸雑収	39	33	△5	△13.3	76
	計	656	646	△10	△1.6	1,301
旅客 人員		千人	千人	千人	%	千人
	嵐山線	3,519	3,512	△7	△0.2	7,093
	鋼索線・架空索道	210	205	△4	△2.1	344
	計	3,729	3,718	△11	△0.3	7,438
営業 利益		百万円	百万円	百万円	%	百万円
	嵐山線	44	45	0	2.0	47
	鋼索線・架空索道	12	12	△0	△2.1	11
	計	57	58	0	1.1	59

兼業		前第2四半期 累計期間	当第2四半期 累計期間	前年同期比較増減		前事業年度
		(24.4.1～ 24.9.30)	(25.4.1～ 25.9.30)	金額	率	(24.4.1～ 25.3.31)
営業 収益		百万円	百万円	百万円	%	百万円
	不動産業	383	436	52	13.8	828
	レジャー・サービス業	207	214	7	3.6	395
	計	590	650	60	10.2	1,224
営業 利益		百万円	百万円	百万円	%	百万円
	不動産業	78	117	39	50.5	143
	レジャー・サービス業	△24	△27	△2	△11.1	△54
	計	53	90	36	68.3	89